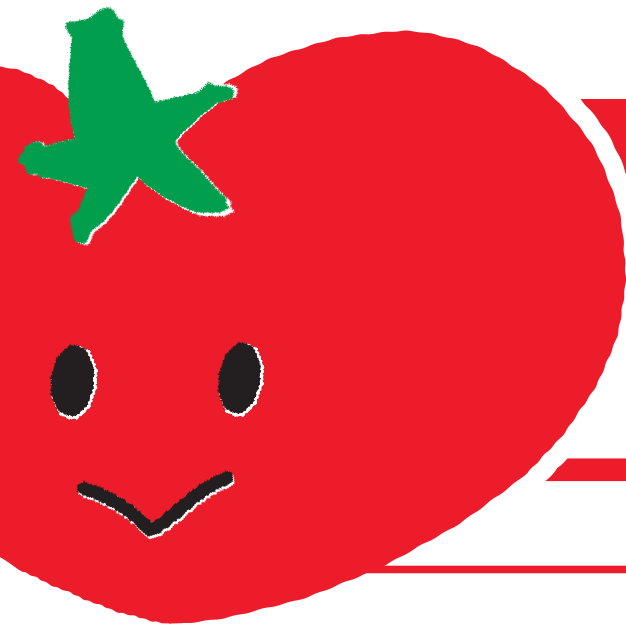


# とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2016.11 November vol.37



九月定例議会

## 地域の財を守り育てる

地域には価値ある資源が埋もれている

9月12日から10月7日までの会期で定例議会が開会しました。今議会では、古文書の調査保存、理学療法士などの専門職の人材確保、保育・幼児教育についての課題を取り上げました。県内には貴重な遺産があり、将来の島根を担う子どもたちや若い人たちがいます。様々な県内の財(たから)を守り育てていくことが大事です。

今議会では、三江線の廃止

について議論が集まりました。人口減少が進む島根にとって、公共交通の確保は喫緊の課題です。閉会時に知事は三江線の問題に触れ、「公共交通の確立に全力で取り組む」との決意を述べられました。だが、今、県民みんながこの問題について考えるべき時に来ています。

私は、今回も一般質問に立ち、一問一答形式で知事の考えを質しました。



一問一答で一般質問

今、資料の収集は古代センターでやっており、県史をどうするかについては、今後の検討課題とさせていただきます。

島根県も資料編も含めた県史編纂の意向はないのか。知事 県史は、県の歴史的資料を県民共有の財産として後世に伝えるなどの役割があるが、この編纂は、古代から現代までの資料収集や調査研究を行うことから、相当の期間と経費、専門職員の配置、そして専門的知識を有する人材の確保などが必要。こうした課題があり、財政の点も含め慎重に判断する必要がある。

古文書等の調査・収集を

他県では県史編纂に当たり、資料集を編集して後世に残すことをしています。島根県が進める「魅力ある観光づくり」でも歴史的に価値のある資料の調査・収集は重要です。しかし、島根県ではそのことが十分になされていません。

島根県も資料編も含めた県史編纂の意向はないのか。知事 県史は、県の歴史的資料を県民共有の財産として後世に伝えるなどの役割があるが、この編纂は、古代から現代までの資料収集や調査研究を行うことから、相当の期間と経費、専門職員の配置、そして専門的知識を有する人材の確保などが必要。こうした課題があり、財政の点も含め慎重に判断する必要がある。

人口減少が進み、過疎化が進む島根県にあって、資料価値のある公文書等が散逸する恐れがあります。県内にある歴史的資料価値のある古文書の調査が早急に必要です。

他県のように調査研究を

目的とした公文書館を設置する必要があると考えるが、知事の考えを聞く。知事 公文書館は、歴史資料として重要な公文書等を保存



元島根県立博物館に公文書センターを設置

し閲覧に供することも、これに関する調査研究を行うことを目的としている。県では、重要な公文書を適切に保存し一般の利用に供することを目的として、平成23年に公文書センターを設置した。一方、公文書館の設置となると、私文書も含めた調査研究を行う必要があり、職員が20名程度必要で、うち専門知識を持つ職員が5名ぐらい必要で、相当の職員の配置、施設の整備が必要。

現在、県では公文書センターが明治以降の県の公文書を、県立図書館及び古代出雲歴史博物館が明治以前も含む古文書を収集、保存している。これからも、それぞれの機関で機能分担や連携を行いながらどういった方法がいいのか、研究していきたい。

リハビリ系専門職人材が

県外に流出 県内にはリハビリに欠かせない人材養成の学校が4校あり、県内の医療施設や介護施設などに人材を送り出しています。しかし、その定員と卒業生数の状況と就職状況について健康福祉部長に質問すると、作業療法士が定員110名に対し卒業生数35名、理学療法士が定員150名に卒業生数75名、言語聴覚士が定員110名に卒業生数21名であり、定数370名に対し、卒業生数131名で定数に達していないことが判りました。また、そのうち、76名が県外に就職しており、人材が県外に流出しています。

今後の作業療法士などのリハビリ系専門職人材の県内需要見込みは？ 健康福祉部長 昨年の需要見込み調査によれば、今後10年間で、作業療法士が80人程度、理学療法士が70人程度、言語聴覚士が40人程度で、施設別では、介護施設130人、病院50人、障がい者施設10人の需要増となっている。

こうした状況から「病院だけでなく、県内6か所にある児童発達支援センターなどの福祉施設の人員配置を見直し、専門職の配置を義務付けるなどして、需要を喚起すべきでは」との問いに、健康福祉部長からは、「専門職の配置には一定額の加算があるが、十分ではない。改善に向けて国に要望していきたい」との答弁がありました。

保育・幼児教育の充実に

今、保育所の整備が進んでいますが、保育の質を充実させることも必要です。保育士が経験を積むことによって専門性を培うこと、また職場内あるいは地域内の保育士同士の情報交換、さらには保護者とのコミュニケーションを深めること、それはまた保護者の親力を高めていくことにもなります。

保育所を子育ての場としてだけでなく、親育ての場としていくことも必要ではないでしょうか。保護者に対する親育ても含めて幼児教育に熱心に取り組む福井県では、幼児教育支援センターを設置し、幼児の基本的な生活習慣や、保護者と園の信頼関係の構築など多様な効果を求めて、幼児の保護者・祖父母等の幼児教育に対する知識・技術や意識を高めていくことに取り組んでいます。

保護者の子育ての学びや保育士との信頼関係構築などの取り組みを進めることへの考えを聞く。健康福祉部長 福井県では、平成24年11月に幼児教育支援センターを設置され、専任職員を配置して、幼児教育や家庭教育を総合的に支援する体制をとっている。具体的



子どもの療育に取り組む理学療法士などの皆さん

な取り組みとして、保育所や幼稚園において親力向上に向けた1日保育体験等の実施や、健診会場での出前家庭教育講座の開催、また保育士、幼稚園教諭合同での教育研修などを行っている。島根県では、福井県のような取り組みには至っていないことから、今後、福井県を始め他県の先進事例等も参考にしながら、保育、教育機能の充実について研究したい。

乳幼児期の子どもに対する保育・幼児教育の質の向上に向け、保育所や幼稚園を一体的に支援できる体制が必要だと考えるが、所見を聞く。知事 乳幼児期は、生涯の間形成の基礎が培われる最も大切な時期で、保育所や幼稚園等で保育、教育の質の向上は重要な課題である。先進事例なども参考にしながら、教育と保育部門の一層の連携強化を図り、関係団体等の意見も聞きながら、今後さらに充実に向けて研究をしていきたい。

## とまちゃん通信

総務委員会 県外調査  
路線バスなどの活用による地域交通網の整備

総務委員会の調査テーマである「地域交通の確保」について、県内外で調査を進めています。8月17～19日に、青森県と北海道で調査を行いました。

最初に、八戸市役所で地域

交通政策について調査しました。東北新幹線八戸市駅が開業後、入り込み客が増加している八戸市は駅から中心街までは6キロ離れていて、ここを結ぶ市バスと私鉄バスの共同運行、幹線軸路線の整備をはじめ、公共交通政策に積極的に取り組んでいます。特に路線バスの料金上限設定により運賃の低廉化や競合する路線バスの等間隔運行を実現され、市民目線の地域交通の整備に取り組まれています。また、路線バスを利用した日帰りバスパックにより、利用客の増加に取り組まれています。



八戸市の公共交通アテンド「はちこ」さん

次に、青森県庁で調査を行いました。青森県では、市町村内の地域交通の整備はそれぞれの自治体で行うことを基本に、広域交通の整備は県が役割を担い、ネットワークの構築と、維持・運営可能な公共交通網の整備計画に向けた交通網形成計画を策定し取り組んでいます。県が補助する路線網を再編し、効率化をはかり利便性を高めるよう、今後、路線の整備などに取り組みれます。



青森県庁で公共交通網の整備計画について聞く

な公共交通基盤の構築に向けた交通網形成計画を策定し取り組んでいます。県が補助する路線網を再編し、効率化をはかり利便性を高めるよう、今後、路線の整備などに取り組みれます。

3月に開通した青森と函館北斗を結ぶ新幹線に乗り込んで津軽海峡を渡り、北海道ニセコ町へ行き調査しました。ニセコ町では、乗客が減る路線バスへの対応など地

域内交通の整備に取り組む、必要な人が必要ときに利用できる予約制ドアツードアで運行する乗り合いバス「こっこバス」を運行しています。昨年調査した安曇野市と同じような形で予約をした家庭を回り、乗客を目的地まで運ぶものです。

ニセコ町は世界的にも有名なパウダースノーのスキー場があり、外国からのスキー客も増え、また、夏場の観光客も多く、移動人口の増加とそれを支えるサービス業など第三次産業従事者により、人口はここところ増加までにはいかないものの維持されています。その中で「こっこバス」の運行は利用者も多く、現在の2台からさらに台数を増やしたいところですが、財政負担も多くなることも考えつつ、地域交通の確保に向けて取り組まれています。住民の要望にどこまで応えるか、住民自治を標榜するニセコ町として、どのような地域交通網整備されるのか、今後も注目したいところです。

最後に、北海道庁で道内の地域交通網整備に向けた取り組みについて調査しました。道内各市町村がデマンド交通や路線バス整備に取り組んでいきます。

最後に、北海道庁で道内の地域交通網整備に向けた取り組みについて調査しました。道内各市町村がデマンド交通や路線バス整備に取り組んでいきます。



旧北海道庁前で

二セコ町長による町の概要説明を受ける

二セコ町長による町の概要説明を受ける

二セコ町長による町の概要説明を受ける

二セコ町長による町の概要説明を受ける

使用済み燃料処理状況を六ヶ所村で調査

8月16日、島根原発の廃炉計画で問題となってきた使用済み燃料の処理について、青森県六ヶ所村に調査に出かけました。北半島の中ほどにある広大な敷地に日本原燃株式会社社の再処理工場や中間貯蔵所などがあります。PRセンターで説明を受けた後、レベル放射性廃棄物埋設センターを見学しました。一号、二号の埋設所それぞれに、15万本のモルタル充填で固められた廃棄物を入れたドラム缶が、嚴重にコンクリートで固められた箱の中に詰められ、埋め立てを待っている状態です。埋め立てが終われば、雨水等の排水の検査を続けながら放射能の低下を見つづけていくこととなります。

次に、再処理工場がある地域に移動し、使用済み燃料貯蔵所を見学しました。PRセンターで説明を受けた後、レベル放射性廃棄物埋設センターを見学しました。一号、二号の埋設所それぞれに、15万本のモルタル充填で固められた廃棄物を入れたドラム缶が、嚴重にコンクリートで固められた箱の中に詰められ、埋め立てを待っている状態です。埋め立てが終われば、雨水等の排水の検査を続けながら放射能の低下を見つづけていくこととなります。



原子燃料サイクルについて聞く

今回、再処理工場がある地域に移動し、使用済み燃料貯蔵所を見学しました。PRセンターで説明を受けた後、レベル放射性廃棄物埋設センターを見学しました。一号、二号の埋設所それぞれに、15万本のモルタル充填で固められた廃棄物を入れたドラム缶が、嚴重にコンクリートで固められた箱の中に詰められ、埋め立てを待っている状態です。埋め立てが終われば、雨水等の排水の検査を続けながら放射能の低下を見つづけていくこととなります。

今回、再処理工場がある地域に移動し、使用済み燃料貯蔵所を見学しました。PRセンターで説明を受けた後、レベル放射性廃棄物埋設センターを見学しました。一号、二号の埋設所それぞれに、15万本のモルタル充填で固められた廃棄物を入れたドラム缶が、嚴重にコンクリートで固められた箱の中に詰められ、埋め立てを待っている状態です。埋め立てが終われば、雨水等の排水の検査を続けながら放射能の低下を見つづけていくこととなります。

今回、再処理工場がある地域に移動し、使用済み燃料貯蔵所を見学しました。PRセンターで説明を受けた後、レベル放射性廃棄物埋設センターを見学しました。一号、二号の埋設所それぞれに、15万本のモルタル充填で固められた廃棄物を入れたドラム缶が、嚴重にコンクリートで固められた箱の中に詰められ、埋め立てを待っている状態です。埋め立てが終われば、雨水等の排水の検査を続けながら放射能の低下を見つづけていくこととなります。

今回、再処理工場がある地域に移動し、使用済み燃料貯蔵所を見学しました。PRセンターで説明を受けた後、レベル放射性廃棄物埋設センターを見学しました。一号、二号の埋設所それぞれに、15万本のモルタル充填で固められた廃棄物を入れたドラム缶が、嚴重にコンクリートで固められた箱の中に詰められ、埋め立てを待っている状態です。埋め立てが終われば、雨水等の排水の検査を続けながら放射能の低下を見つづけていくこととなります。

今回、再処理工場がある地域に移動し、使用済み燃料貯蔵所を見学しました。PRセンターで説明を受けた後、レベル放射性廃棄物埋設センターを見学しました。一号、二号の埋設所それぞれに、15万本のモルタル充填で固められた廃棄物を入れたドラム缶が、嚴重にコンクリートで固められた箱の中に詰められ、埋め立てを待っている状態です。埋め立てが終われば、雨水等の排水の検査を続けながら放射能の低下を見つづけていくこととなります。

今回、再処理工場がある地域に移動し、使用済み燃料貯蔵所を見学しました。PRセンターで説明を受けた後、レベル放射性廃棄物埋設センターを見学しました。一号、二号の埋設所それぞれに、15万本のモルタル充填で固められた廃棄物を入れたドラム缶が、嚴重にコンクリートで固められた箱の中に詰められ、埋め立てを待っている状態です。埋め立てが終われば、雨水等の排水の検査を続けながら放射能の低下を見つづけていくこととなります。

今回、再処理工場がある地域に移動し、使用済み燃料貯蔵所を見学しました。PRセンターで説明を受けた後、レベル放射性廃棄物埋設センターを見学しました。一号、二号の埋設所それぞれに、15万本のモルタル充填で固められた廃棄物を入れたドラム缶が、嚴重にコンクリートで固められた箱の中に詰められ、埋め立てを待っている状態です。埋め立てが終われば、雨水等の排水の検査を続けながら放射能の低下を見つづけていくこととなります。